



千葉市立青葉病院

CHIBA AOBA MUNICIPAL HOSPITAL



CHIBA CITY

Message

わかりやすく納得のいく医療を 心のこもった笑顔で

当院は、市立病院として千葉市の政策的医療を担う役割があり、その代表が救急医療です。当院では年間 4,000 台以上の救急車を受け入れています。夜間帯の受け入れは千葉市で最も多く、夜間救急の「砦」としての役割を果たしています。

国が進める地域包括ケアシステムにおいては、地域医療支援病院として、かかりつけ医・ケアマネジャー・訪問看護師と連携をはかっています。また、かかりつけ医へのバックアップ体制として「在宅医療支援病床」があり、在宅診療を受けている患者さんの緊急入院を受け入れています。

地域との連携と当院の強みを活かして「わかりやすく納得のいく医療を心のこもった笑顔で」提供してまいります。



病院長
山本 恭平





市立病院の使命
市民が必要とする安全・安心な医療を
一人でも多くの市民に提供する。

地域医療支援病院
災害拠点病院
臨床研修指定病院
日本医療機能評価機構認定医療機関 (3rdG:Ver2.0)

Introduction of Departments

多様な症例に対応すべく、最新鋭の医療を追求しています。

整形外科

外傷を中心とした整形外科一般診療のほか、脊椎外科、関節外科、上肢外科の専門的診療を行っており、市内のみならず県内からも多くのご紹介をいただいています。小児から高齢者まで幅広く対応しています。また単科では対応できないような合併症をもった症例も他科との綿密な連携のもと適切な診療を行っています。



救急科

24時間365日の診療体制とし、中等症から重症の救急搬送患者さんの治療の他、院内発生の重症患者さんに対する集中治療管理を行っています。



循環器内科

急性心筋梗塞、急性心不全や不整脈などの緊急対応が必要な疾患の診療に力を入れています。また、狭心症（階段・坂道で胸が痛くなる）や閉塞性動脈硬化症（長く歩くと足が痛くなる）などの動脈硬化性疾患の診療にも力を入れており、体への負担の少ないCTやMRIなどを用いた検査が可能です。心臓の血管（冠動脈）や下肢動脈に狭窄（動脈硬化）が認められた場合には、カテーテルという細い管を血管に入れることで治療が可能です。従来の『狭いから広げる』という考えは必ずしも正しくないことが分かってきています。心臓核医学検査を含めた機能的検査で治療適応を厳格に判断してからカテーテル治療を行うこととしています。



血液内科

急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器腫瘍の他、再生不良性貧血や特発性血小板減少性紫斑病など幅広く診療を行っています。血液内科領域においては分子標的薬などの新規薬剤の登場や、造血幹細胞移植分野においてもさまざまな造血幹細胞ソースを用いた造血幹細胞移植など、治療法も多様化しておりますが、正確な診断とエビデンスに基づく治療を検討し、それぞれの患者さんに最適な治療法を実践することを心がけています。また、血液疾患の治療にあたっては、全身のさまざまな臓器に合併症を認めることがありますが、他科との良好なチームワークにより、質の高い診療を提供できることも当院の特徴です。



糖尿病・代謝・内分泌内科

甲状腺、副甲状腺、下垂体・副腎、骨・カルシウム代謝疾患などの内分泌疾患の専門診療を行っています。中でも甲状腺・副甲状腺疾患は内分泌疾患の中では比較的頻度の高い疾患ですが、2018年4月より甲状腺・副甲状腺センターを開院いたしました。2020年はバセドウ病の新患数は154人、橋本病の新患数は102人程度の診療実績があります。耳鼻いんこう科医師と協力のもと診断から治療（例えば、バセドウ病に対するアイソトープ治療、甲状腺癌や副甲状腺腫瘍に対する腫瘍摘出術など）まで一貫して行うことが可能です。



泌尿器科

安全性が高く低侵襲なレーザー治療を前立腺肥大症治療と尿路結石治療領域に導入し、特に前立腺肥大症に対するHoLEP（経尿道的レーザー前立腺切除）は年間100件以上の症例数です。また2018年3月より従来の80Wレーザーの他に、より止血効果の高いルミナス社製120Wハイパワーレーザーを導入し良好な成績をおさめています。癌治療にも積極的に取り組み、尿路癌手術においては腹腔鏡手術で低侵襲化と入院期間短縮を推進しています。



Introduction of Departments

消化器内科

急性期病院として吐血や腸閉塞などの急性疾患に対し、内視鏡やCT等を用いて速やかな診断と治療ができるように努めています。慢性難治性疾患である潰瘍性大腸炎やクローン病に対しても顆粒球吸着療法や抗TNF α 製剤などを用いて積極的に治療を行っています。悪性疾患では胃癌・大腸癌などの消化管悪性腫瘍の内視鏡治療や抗癌剤治療、肝臓癌に対してのラジオ波焼灼療法や肝動脈塞栓療法にも対応しています。

脳神経内科

脳血管障害、髄膜炎、ギラン・バレー症候群やパーキンソン病・脊髄小脳変性症・多発性硬化症等の難治性疾患、てんかん、頭痛、めまい等の神経疾患全般を対象に専門医3名で外来、入院診療において専門的な診断と治療を行っています。CT、3T-MRI/MRA、SPECT検査、神経伝導検査、筋電図、脳波等の検査が可能です。

外科

消化器外科悪性疾患（胃癌、大腸癌）および一般外科系疾患（鼠径部ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニア、胆石症、急性虫垂炎、十二指腸潰瘍穿孔、腸閉塞など）に対し、積極的に腹腔鏡下手術を行っています。早期胃癌、早期大腸癌に対しては内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）も施行しています。

産婦人科

産婦人科領域の中で、婦人科腫瘍（主に良性疾患）、周産期、内分泌、女性ヘルスケアの分野をカバーしています。婦人科手術を積極的に行っており、開腹手術に加え、内視鏡手術（腹腔鏡手術、子宮鏡手術）、LEEP手術も行っています。

呼吸器内科

感染症や気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、自然気胸をはじめとして、さまざまな疾患に対応するように努めています。特に、胸部異常陰影や長引く咳や血痰などに対しては積極的に精査しています。

総合診療

2013年より新設された診療科です。専門医が豊富な当院において、どの専門科に相談すべきか、それとも相談する必要がないのかわかりにくい症例もあり、その橋渡し役を担うべく日々診療しています。

リウマチ科

アレルギー、リウマチ性疾患、膠原病疾患全般を対象としております。関節リウマチについては関節超音波を駆使した診療を行っており、各種分子標的製剤の投与も可能です。

皮膚科

外来では湿疹・水虫・ニキビといった一般的な疾患から、乾癬・多汗症・陥入爪といった専門的な治療が必要な疾患まで幅広く診療しています。また、入院加療が必要な天疱瘡、蜂窩織炎、重症薬疹、带状疱疹等の受け入れも可能です。その他、皮膚腫瘍に対する手術治療も行っています。

耳鼻いんこう科

幼小児から高齢者まで外来・入院治療を幅広く行っています。めまい疾患や急性扁桃炎などの急性疾患、突発性難聴や顔面神経麻痺などから甲状腺疾患に関する手術治療などを患者さんのことを第一に考え診療しています。



専門性の高い診療で 地域医療を支えます。



眼科

糖尿病網膜症・甲状腺眼症・血液疾患に伴う眼合併症・皮膚疾患に伴う眼合併症などを中心に各科と連携して診療を行っています。視野検査・眼球運動検査・蛍光眼底造影検査・光干渉断層計検査等の各種検査機器を用い、検査結果を提示しながらわかりやすい説明を心がけています。網膜光凝固・硝子体注射・ステロイドパルスなどの治療が可能であり、QOV（視覚の質）の向上・維持を目指しています。

小児科

感染症や気管支喘息を中心に、喀痰での細菌迅速検査なども行い、診断・治療をしております。『咳が長引く』『ゼイゼイが治らない』『熱をよく出す』『予防接種が遅れている』などご相談ください。循環器の専門外来では心雑音、顔色不良、胸痛、脈不整、学校二次検診からのご相談をお受けしています。

成人精神科

現在、医師減員に伴い、外来の新規の予約診療を中止しています。入院病棟についても、2022年3月末をもって休棟となっています。なお、院内他科への入院患者の精神症状（不眠、不安、せん妄等）に対し、当該科からの依頼を受けて、病棟に往診する形で対応しています。特に高齢者の入院患者については、医師による診療とは別に、高齢者サポートチームとして多職種で相談に応じています。

児童精神科

児童思春期専門病棟を有し、中学生までの児童を対象とした入院治療を行っています。院内学級（千葉市立星久喜小・中学校の分教室）を備えており、不登校に対する復学支援、高校進学支援に力を入れています。臨床心理士、医師、看護師、教師、精神保健福祉士、作業療法士などの多職種による複数の治療プログラム（集団精神療法、ソーシャルスキルトレーニング、作業療法、心理療法など）を実施しています。

歯科

口腔環境の悪化と全身的な病気との関連が指摘されており、口腔環境を改善・整備し、その状態を維持することを目標に診療しています。医科の先生方と連携して入院患者さんの周術期の口腔管理や、病状により通常の歯科治療が困難な病気の方の歯科治療を行っています。

麻酔科

手術室での麻酔業務を中心に、検査の麻酔、入院患者さんの疼痛治療も行っています。常勤医2名で、全員が麻酔科専門医指導医です。高齢者や合併症のある患者さんが増加するなか、日々安全第一を心がけて麻酔を行っています。

病理診断科

内視鏡や手術で採取された患者さんの体の組織や細胞を顕微鏡で観察して診断します。全ての診断結果は、診断根拠となる顕微鏡写真を付けて、2～3日のうちに電子カルテ上に報告しています。

リハビリテーション科

専任のリハ医2名、療法士20名（PT11名、OT7名、ST2名）で入院患者を中心に急性期の集中的なリハビリを行っています。脳血管リハI、運動器リハI、心大血管リハI、廃用リハI、呼吸器リハI、がんリハの施設基準を満たし、整形外科疾患、脳血管障害から廃用症候群、悪性疾患に至るまで幅広く対応しています。安全で効率的な訓練により患者さんのADL向上を目指します。

For the Community

患者支援センター がん相談支援センター

初めて受診する時から患者さんをご家族を支援するべく、看護師や医療ソーシャルワーカー・理学療法士・栄養士など多職種が対応しています。

当院に通院・入院中の患者さんの医療に関するご相談、「がん」に関する様々なご相談をお受けしております。

病気に関することや経済的な問題だけでなく、不安な気持ちや誰に相談すればいいかわからないという悩みに専任の相談員が対応します。



糖尿病センター

糖尿病の基本的な知識を学んでいただくために糖尿病教室を開催しております。

入院・外来の患者さんを対象に、毎月第1・最終週の金曜日の午後1時～3時に行なっています。

医師・管理栄養士・薬剤師、臨床検査技師、理学療法士が交代で糖尿病の基礎知識を説明いたします。



研修指定病院

今後の千葉の医療を担っていく人材を育成しています。

内科は、総合内科として医師同士の連携が密であり、各科や救急科の医師との連携もスピーディに行える救急体制が整っています。このような研修医へのバックアップ体制で、市民が必要な救急医療を支える医師を育成しています。



DMAT

市立病院・災害拠点病院として、災害対応も青葉病院の大切な役割と考えています。

日本 DMAT (Disaster Medical Assistance Team; 災害派遣医療チーム) 隊員が在籍しています。有事の際も診療を止めず、災害対応支援および災害地域への出動が可能な体制を整えています。



認定看護師

急性期医療を支える
スペシャリストがいます。

認定看護師が救急科で、感染管理の認定看護師が ICT (感染制御チーム) 等で専門的な知識やスキルを活かして安心・安全な看護を実践しています。



退院前と退院後の自宅訪問

自宅療養のサポート。

ご自宅に退院して療養される患者さんのご自宅へ、病棟看護師・理学療法士・地域連携室退院支援看護師が自宅に訪問し、安心して療養できるよう支援しています。



地域包括ケアシステムの中で 在宅医療を支える

在宅医療支援病床。

在宅療養する登録患者さんの病状が急に悪くなった時に、地域の診療所と連携し、24時間365日、緊急入院を受け入れています。安心して在宅医療が受けられる体制を、提供しています。



地域との多職種連携

「地域包括ケアシステム」とネットワーク作り。

当院の医師・看護師が講師となり、地域のケアマネジャー対象に医療知識を学ぶ「在宅医療コーディネーター研修」を開催しています。実際に胃ろうの構造を見てラインを繋いだり実習も取り入れたカリキュラムです。当院のスタッフと「顔の見える関係」を作り、地域の在宅医療のリーダーを育成しています。



病院の概要

名称	千葉市立青葉病院
所在地	千葉市中央区青葉町 1273 番地 2
診療科目	内科、精神科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、感染症内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、リウマチ科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、麻酔科、病理診断科、救急科
病床数	369 床 (一般 307 床、精神 56 床、感染症 6 床)
敷地面積	26,250.15㎡
構造	SRC 造、RC 構造、免震構造
延床面積	34,012.13㎡
病院棟	29,094.02㎡



日本医療機能評価機構
の認定を受けています。



職員数

区 分	合 計
医 師	75
歯 科 医 師	1
初 期 臨 床 研 修 医	17
薬 剤 師	28
看 護 師	386
助 産 師	7
診 療 放 射 線 技 師	21
臨 床 検 査 技 師	35
理 学 療 法 士	11
作 業 療 法 士	7
言 語 聴 覚 士	3
歯 科 衛 生 士	1
臨 床 工 学 士	5
管 理 栄 養 士	7
精 神 保 健 福 祉 士	1
介 護 福 祉 士	10
そ の 他 の 医 療 技 術 員	10
事 務 職 員	95
診 療 情 報 管 理 士	5
社 会 福 祉 士	4
看 護 補 助 者	13
合 計	742

令和4年4月1日現在 (非常勤含む)



薬剤師



外来コンシェルジュ



管理栄養士



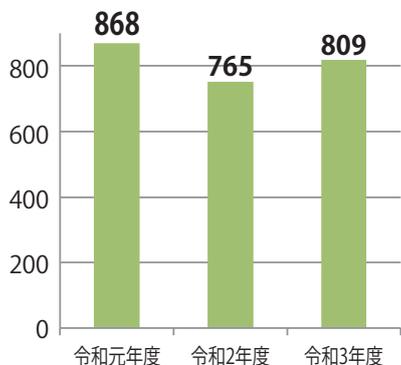
臨床検査技師

患者数

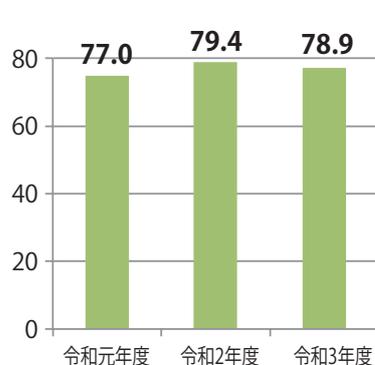
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
外来患者数 (人/日)	868	765	809
紹介患者数 (人)	9,918	8,116	8,869
逆紹介患者数 (人)	11,231	9,410	8,645
紹介率 (%)	77.0	79.4	78.9
逆紹介率 (%)	87.2	92.1	76.9
稼働率 (313床)	84.9	75.8	79.1
平均在院日数 (日)	13.3	13.1	13.4
救急搬送患者数 (人)	4,528	3,862	3,922
夜間帯救急搬送患者数 (人)	3,026	2,560	2,581
整形外科・外科系 市内輪番担当数 (日/1カ月)	22	19	19
内科系 市内輪番担当数 (日/1カ月)	19	18	18

- 外来に毎日 800 人を超える患者さんが来院され、病棟には 250 人以上の患者さんが入院されています。

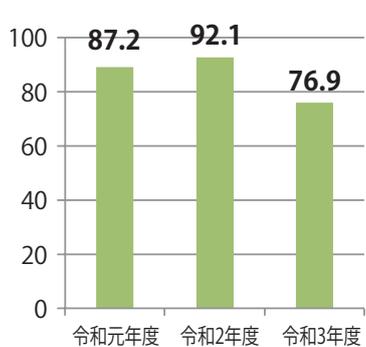
外来患者数 (人/日)



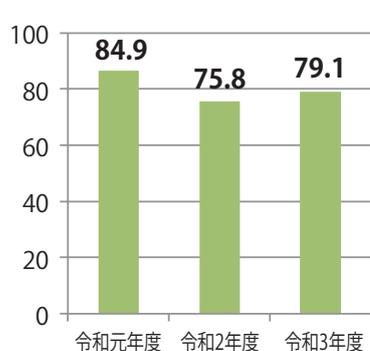
紹介率 (%)



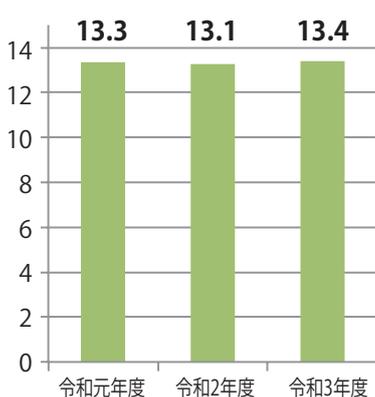
逆紹介率 (%)



稼働率 (313床) (%)



平均在院日数 (日)

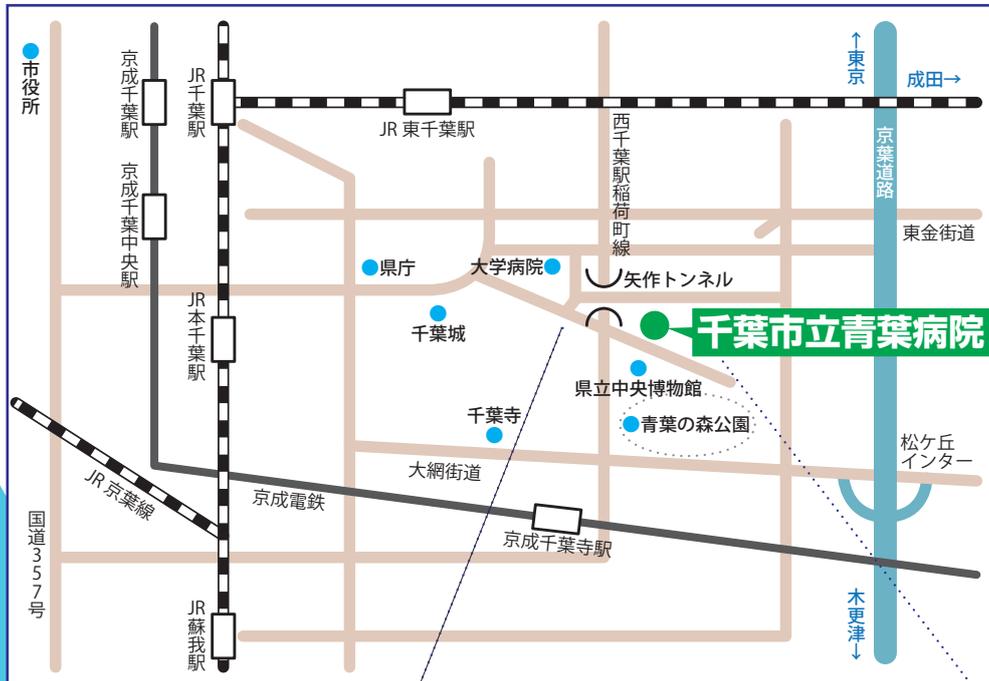


救急搬送患者数 (人)



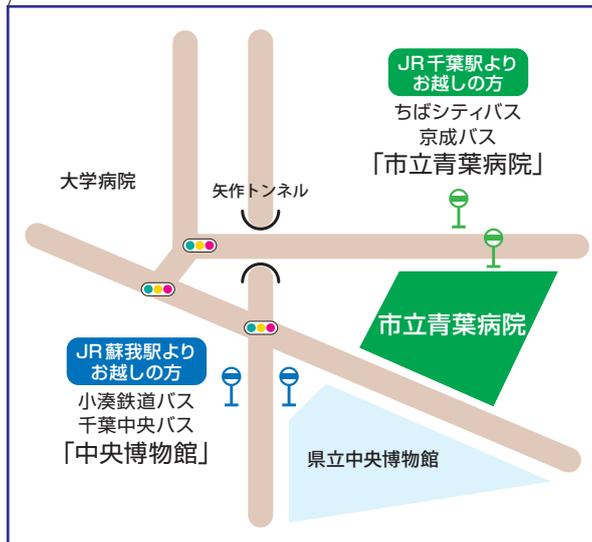
- 千葉県救急業務 2 次体制において、当院が輪番として救急車を受け入れる日数は、1 か月の 3 分の 2 を占めています。救急患者さんは年間およそ 4,000 人、うち夜間帯の受け入れが 65% を占めています。引き続き、夜間救急の「砦」としての役割を果たしつつ、救急車の適切利用について、ご理解とご協力を呼びかけてまいります。





交通のご案内

- JR千葉駅 東口6番乗り場から
ちばシティバス「川戸・都苑」行で
約20分、「市立青葉病院」下車、
徒歩で約1分
- JR千葉駅 東口7番乗り場から
京成バス「大学病院・南矢作」行で
約20分、「市立青葉病院」下車、
徒歩で約1分
京成バス「大学病院」行で約15分、
「中央博物館」下車、徒歩で約5分
(千葉駅から「大学病院・南矢作」行、
または、「川戸・都苑」行のバスは
「中央博物館」を經由します)
- JR蘇我駅 東口2番乗り場から
小湊鉄道バス・千葉中央バス「大学
病院」行で約15分、「中央博物館」
下車、徒歩で約4分



わかりやすく納得のいく医療を心のこもった笑顔で

千葉市立青葉病院

〒260-0852 千葉市中央区青葉町 1273 番地 2

TEL 043-227-1131(代) FAX 043-227-2022

URL <https://hospital.city.chiba.jp/aoba/>